

水上學寮の子供達

古屋ごしの

此頃の夕べ、涼みがてら、兩國橋や永代橋あたりに出て、隅田川を見ますと、其處には、多くの小舟が竝んで居りませう。其の舟の中では、お父さんが船頭さんになり、お母さんは舟べりに出て炊事をし、子供等も生れてから舟を家として、生活してゐる人を見られます。このやうな境遇に生れた子供たちは、一體どうして教育を受けることが出来ませうか。彼等は、陸上に上ることが少く、舟が家で、然も絶えず居所が定まりませんので、最も頭腦の發育し易い子供の時代を、何の規則立つた教育も受けずに、過ぎてゆくものが多うございます。この水上生活者の子供等に、どうにかして、せめて小學校の義務教育だけでも、興へてやりたい、と云ふ希望から、南千住地方橋場に、水上學寮といふ、さうやかな學校が、今から三年前に設立されたのでございます。私は學校時代から、小さい子供たちの教育、殊に不幸な子供達の教育に、専心従事し見たいと云ふ希望

から、今春、青山女學院を卒業して、六月からこの水上學寮に、毎日子供らを教へることにになりました。未だ經驗も淺い私が、かれこれお話し申上げるのは、誠におはづかしい次第でございますが、他の普通の家庭の子供等とは如何に違つてゐるか、を述べまして、皆様にお導きを頂きたいのでございます。

この水上學寮が建てられてゐる南千住地方橋場には、隅田川驛とて、荷物を運搬して隅田川を上下してゐる小舟の集り場がありますが、この學寮も主としてその小舟の中に生活してゐる子供達の爲に、設立されてゐるのでございます。これは今申上げましたやうに設立されてから、今年で三年経て居ります。が、京橋區に住せられる石炭商木村清五郎氏が、御職業上石炭を積み下してゐる多くの小舟に生活してゐる子供等を觀察されて、水上に住む不自由勝ちな生活に同情され、この水上學寮の費用を全部負擔さ

れて、子供等からは授業料も學用品代も一切取らず、ほんとに美しい同情から、このやうな事業を始められたのであります。そして、子供等の教育は、どうしてもやさしい婦人の手に待たなければならぬ、と言ふ木村氏の御考から、私が此處に参ります以前からずつと、代々婦人の先生を雇はれたのでした。

只今在席生徒数は五十二名程ございまして、年齢は七歳から十三歳までの學齡兒童ばかりであります、男女一緒であります、男兒よりも女兒の方がずつと多く通學致して居ります。これは男兒は、十一二歳にもなれば、舟から荷をおろしたり、舟を漕いだり、一人前の働きが充分出來ますので、親達は學校によこすよりも、手助けに使ふ方が便利ですから、なか／＼勉強によこしません、それで學校に通つて居りますのが、女兒の方が多いのであります。五十二名の在席生徒数がありますが、その中で毎日出席して來ますのは、二十三四名位なものでございまして、これは水上生活者のこととて、今日は品川の沖へ舟をつければ、明日は洲崎の方へ行くといふやうに、いつも隅田川驛にばかり碇泊してゐません

ものですから、學校も休みがちなのです。中には大層熱心な子供もありまして、「先生、今日は品川から電車で來ました、」などと、昨日まですぐ前の隅田川驛から五六間歩いて來てゐた兒が、今日は品川から千住までわざ／＼電車でやつてくるといふのもあります。これも尋常五六年になつて十二三歳の子なら、かうして遠方から電車で來られますが、これが二二年の七八歳の子なら、とても出來ない事でございますから、つひ親の住居がかはると缺席してしまふのです。級は一年生が十數名、二年生が數名といふやうに、まちまちで、男兒女兒を一緒の教室で教へるのですから、私のやうな教授の下手なものには、骨の折れること一通りではありません。

教室に當てゝ居ります室は、四間に三間位の小さい室一つで、板の間に塵ゴヤを敷き、その上に長い机を幾つも竝べて居ります。ほんのかりの教室です。道路にむき出しになつて居りますので、人通りはげしい驛前のこととて、石炭を運ぶ荷車、砂利を運ぶ車等、絶えずがら／＼と通るのが響きますし、其の上狭いものでございますから、雨の降る日など暗くて、子供達の顔さへよく見え、空氣は窒息しそうに息

苦しうございます。學校に居ります時から、毎日曜
澁谷教會で日曜學校を教へた心持ちで、此處にまゐ
つて見ますと、この教室のむさくろしいのに私の勇
氣がくぢかれましたが、更らに其處に集つて來る子
供等の氣性の荒々しいのに、すつかり驚かされてし
まひました。こちらで算術を教へてゐると、向ふの
隅ではもう女の兒と男の兒とがつかみあつて喧嘩を
始めてゐる、泣き叫ぶ兒が出る、そつちではもうお
書物にあきて、机の上をびよ／＼わたり歩いてゐ
る、といふ有様です。私などがいくら大きい聲を出
して言ひ聞かせましたつて、とてもおとなしく等は
なりません。此處へ教へに來立てには、毎日大聲を
出して子供等を制するので、聲がすつかりつぶれて
しまつて、家へ歸ると兄等に大笑ひされた程でござ
いました。「今度來た先生はだめだな、ちつともぶた
ないんだもの」、「先生はぶたないから、もう少し騒
いでもいゝや」等と、男の子も女の子も區別なくわ
あ／＼云ふのです。「女と云ふものはおとなしくてお
行儀よくしなればいけないんですよ、」等と靜かに
云つても、何を言はれてゐるのか一向解らず、親達
が舟乗りで荒い氣分になつて、二言目にはすぐ子供

の頭をなぐる、といふ悪い癖をつけて育てゝゐます
から、私が口で言つたりして何とてもだめなので
す。餘り騒がしいので、私も手にあましてゐるのを
見て、この教室の二階に住んでゐる、もと矢張り舟
乗りだつたといふ老人夫婦が、見かねて、「先生、う
んどぶたなくつちやだめですよ」等と注意してくれ
るのです。けれども、いくらなんでも、小さい子を
ぶつといふ荒々しい事はとても出來ませんから、一
生懸命聲をからして鎮めて居ります。中には、おと
なしの子も三人ほどありますが、これは舟乗りの子
供でなくつて、近所から通つて來てゐるのです。

この水上學寮が設けられてから、既に三年も立つ
ても、この様な有様ですから、始めの頃は學校の目
的を了解させて、子供を此處へ集めるだけでも、大
した努力だつたさうでございませう。自分の名前位書
けなくつてはいけない、物の勘定も間違ひなく出來
なくつてはいけないから、たゞで一錢のお金も入ら
ずに讀書きを教へて上げますから、お子さん達をよ
こして下さい、と一つの舟から、他の舟へと、わた
り歩いて、水上學寮の最初の先生は無學の親達を勸
誘して歩かれたさうですが、危い舟べりでたゞ遊ば

せて置くくせに、學校の様子がわからないのか、一向子供をよこさうとしなかつたさうです。これを思へば、私等はとにかく後から上りまして、ずつと樂なのでございます。此頃は水上學寮の名もよくひろまりまして、四月、九月には、子供を連れてわざわざ頼みに来る親もありまして、先達も親が自分の子はどうか、と教授を參觀に來たやうな、物の解つた熱心な親もあります。至らぬ私のやうなものでもこんなに頼られてゐるのか、と思ひまして、嬉しいやうな、又責任を感じて心配なやうな氣がいたしました。

水上學寮の授業は、小學校の程度と同じで、時間も八時頃から二時頃まで、暑中は午前中、勿論暑中休暇もございませぬ。春には、このすぐ近所に、赤地ヶ原といふ廣い野原がありますが、其處へ子供等とお辨當を持參で、楽しい遠足を催しました。千住といふ所は、工場が多く、煤煙の爲め空氣が汚れて居ります。其の上水上學寮の教室も誠に狭く不潔です。ですから、どうしても子供等にのび／＼した自然に接觸させなければならぬと存じて居ります。子供が家として住んでゐる舟は、いつぱい荷が積まれてゐまして、疊の敷いてゐる所はやつと二疊位、その上其處に五人の家族が寝てゐる等といふのは、珍らしいことでありませぬから、どんなに發育盛りの子供に衛生上精神上、害があるか、申すまでもない事では

ございます。これはどうしても、水上學寮は、讀書を教へるばかりでなく、ひろびろした、不安のない陸上の生活を、子供等に樂しませるやうに、將來はしなければならぬと思ひます。それから前に述べましたやうに、水上學寮は、一切お金を兒童から集めず、費用は教科書も筆紙墨も皆こちらから供給して居るのですが、舟乗りの子供は決して私共が考へるやうに貧しくなく、學校に來るのに二十錢三十錢のお金は、どの子も持つてゐるのです。私は始め、學校では何にもお金を費させないのに、どうしてかうお小使を持つてくるだらうと思つて、よく／＼調べて見ますと、子供が舟にゐると邪魔になるものだから、お金をわたして、これで何か買つて食べて夕方まで遊んで來い、と親たちは子供を陸へ上げてしまふのです。すると子供は、陸へ上りたくつてしかたがないものですから、大喜びで近所の駄菓子屋で買食ひしたり、水屋でみつまめを食べたり、すぐ近いものですから雷門へ出て活動へ這入り込む、といふ風にして、一日遊ぶのです。私もこゝに氣がつきましたから、お金は嚴重に取りしまつて、貯金をさせるやうにして居りますし、親の方にもお金を持たしてよこさないやうに言ひ渡しました。六月から貯金させた、子供等の貯蓄が、今三圓餘になつて居ります。

この他、色々の興味ある事柄を學びまして、かう

いふ道に進んで入つた事を感謝して居ります。さて將來、水上學寮はどうしたら理想的になるか、を一寸述べたいと思ひます。私のやうに年若い、經驗少い者が、申すことは、机上の空論に過ぎないかも知れませんが、非常な喜びを以てこの事業に従事してゐる者の説として、どうぞお聞き下さりまして、又御指導を頂きたいのでございます。

第一に校舎を改築せねばならないと思ひます。只今の校舎ではとても充分な教授上の効果を上げる事が出来ないでございませう。只今木村氏が、同じ橋場でございますが、新校舎を建築中でございますから、其が落成しましたら、幾分よろしくなるだらうと思ひます。狭い舟を家として浮草のやうに歩いて居りますのは、學校に通學することも出来ませんから、矢張り水上學寮には、將來は完備した寄宿舎を設ければ、一番よろしいのでございます。さうして、女兒は女兒のみの寄宿舎へ、男兒は男兒のみの寄宿舎へ、親切なる監督の先生をそれ／＼つけまして、義務教育を終る迄は、必ずこの寄宿に居りて勉強が出来るやうにさせたいと思ひます。

第二には學齡兒童ばかりでなく、その下の幼い子供の教育も、水上學寮に於て施すことにしまして、附屬幼稚園、附屬託兒所を設けたらよからうと思ひます。子供等も狭い危険の多い小舟の上で育られず、母親もどんなに安心して仕事が出来ようと思ひ

ます。

第三に水上生活者の父兄の教育を、子供と共に進めて行きたいと思ひます。いくら子供等をよく教育しましたが、舟へ歸ればまた直ぐ悪い荒々しい生活に浸つてゆくといふのでは、せつかくの努力も無駄になりますから、一方は子供の教育を完成させる爲に、又一方に置ては親たちにも舟の上で生活する人でありませうから、色々の不安もありませうし、不自由な事もありませうから、それを私共が相談相手となつて、よりよい生活に導いて行きたいと思ひます。それで毎月一回位に親の會のやうなものを開き、その日には遠くへ漕いで行つてゐる船頭さん達も、是非こちらへ寄つて、皆と一緒に集り、有益なお話を聞き、茶菓を樂しんで、陸上での樂しみを果すといふやうにしたいと思ひます。

この他細い事は澤山ございますが、餘り長くなりませうから、いづれまた述べさせて頂きます。先日岡警視總監の代理の御方が見えられて、水上學寮の授業を參觀されましたが、何んでも東京には、水上生活者が三千人も居るので、その人々の兒童教育等や其の人々の幸福をはかる爲に、岡總監が主となられて會のやうなものを組織されどか承りました。何にしてもそう云ふ試みは結構な事でございます。